てっぺんの葉っぱ

失敗は成長のもと

5年　E・Oさん

マチが下山田先生に水をかけてしまった出来事は、著者のおおぎやなぎさんの実際のエピソードが元になっていると知り、おどろきました。こんなすてきな本を書いた人が、小学生のときに大失敗をしていたなんて。

わたしは、失敗が怖くて、なかなか一歩がふみ出せない性格です。跳び箱で今より高い段にチャレンジするのは怖いし、女の子同士で話しているときに、自分の考えを言うのが苦手です。そのため、今まであまり大きな失敗はしたことがありません。マチもそうでした。ユリアちゃんの話にうなずいていれば、ユリアちゃんとの関係で失敗しないし、あれこれ考えなくていいので楽です。でも、わたしもマチと同じように、なんとなくこれでいいのかなと思うときもたまにあります。

失敗という言葉は、一般的に悪いイメージの言葉です。失敗すると悲しい気持ちになったり、時にはけがをしてしまったりするので、できればさけたいものです。でも、失敗そのものより、その後にどうするかが重要だと思います。マチは、学校での出来事をそのままにせず、何が悪かったのか、どうするのが正しかったのかを自分で考え、下山田先生に心から謝ることができました。そして、自分に自信がついて、ユリアちゃんやサオリンとの関係もよりよいものになりました。

一度も失敗したことのない人と、失敗から立ち上がった人とでは、どちらが魅力的でしょうか。わたしは、後者だと思います。失敗しない楽な人生を送るよりも、失敗した経験のある人生の方が、多くの教訓を得ていると思うからです。おおぎやなぎさんは、自分を成長させてくれた大切な経験として、この出来事を物語にしてくれたのだと思います。今失敗してしまっても、それはいい経験だったと後でふり返ることができます。失敗をおそれず一歩ふみ出す勇気を、マチとおおぎやなぎさんからいただきました。